



2007年、ザグレブ弦楽四重奏団の日本公演にソリストとして共に来日し、東京文化会館にて日本デビュー。逆輸入ピアニストとして話題となり、メディアにも多く取り上げられた。日本人離れした感性に加え、繊細さと大胆さを兼ね備えた独創的な演奏は評価が高く、国際的に活躍している。

TV「たけしの誰でもピカソ～世界が絶賛！痛快！日本男児～」の出演を機に日本国内での活動も増え、これまでに、サントリーホール・大ホール、東京オペラシティ・コンサートホール、大阪いずみホール、名古屋しらかわホール等国内主要ホールでのリサイタルツアー、エルサレム交響楽団の来日公演ではソリストに抜擢され共演。また、日本スペイン交流400年記念公演、北マケドニア共和国オフリッド湖国際音楽祭等に日本代表アーティストとして出演。世界的オペラ歌手中丸三千繪氏との共演で、エジプト・ピラミッド公演、G20大阪サミットにて世界各国首脳の前にて演奏。

イノ・ミルコヴィッチ高等音楽院(モスクワ音楽院提携校)を経て、クロアチア国立ザグレブ大学・音楽アカデミーを最優秀にて卒業。ザイラー国際音楽コンクール優勝、ブラームス

国際音楽コンクール第2位。世界各国での演奏活動の中で、特にドイツ公演では「最高クラスのピアニスト」と紙面で絶賛され、オーストラリア公演では世界的現代美術画家のチャールズ・ベリッチ氏より「本当に才能を授かって生まれてきたクリエイターはごく稀である。トモヒロはそのうちの一人だ。彼が弾くとピアノは生きていると思わせる。」と評され、現地メディアにも大きく取り上げられた。

特筆すべきは、クロアチア音楽の第一人者でもあり、日本クロアチア音楽協会の代表者としてクロアチア音楽の普及活動に尽力していることである。特に、同国初の女性作曲家ドラ・ペヤチェヴィッチの作品への造詣は深く、その演奏はペヤチェヴィッチの故郷ナシツェでも大絶賛され、同作曲家の没後90年、生誕130年、ドラ音楽学校創立30周年等、記念公演に常に招かれるなど、安達朋博は現地で最も歓迎されるピアニストであり、2016年にはオシエク国立歌劇場にてペヤチェヴィッチのスペシャリストとしてソリストに抜擢されピアノ協奏曲を披露した。日本でも、ピアノ協奏曲や協奏的幻想曲をはじめ、ソロ・室内楽・歌曲の多数の日本初演を行ってきた。2007年に、本邦初録音となるペヤチェヴィッチのピアノ作品を収録したCDを、2016年にはピアノ協奏曲と協奏的幻想曲を収録したCDを発売。これまでに国内外にて300以上のステージでドラ・ペヤチェヴィッチを演奏している。そのほかに、イヴォ・ヨシポヴィッチ、パヴレ・デシュパイ、ボリス・パパンドプロ、ボジダル・クンツといった、クロアチアを代表する作曲家の作品の内外初演も多数手がけるなど、クロアチアの文化発展に貢献した人物を紹介する学術誌「HRVATSKOSLOVO」には安達朋博も掲載されている。